



広場の一角に控えめにたたずむ石碑

我が街の記念碑

「絹乃道」碑

町田市



【町田・配管・清水健通信】小田急線「町田」駅の東口を出ると、カリヨン広場という広場がある。現在、正式名称は仕掛け時計の撤去に伴

ペンチや喫煙所などが設けられ、町田駅周辺では待ち合わせの聖地として、多くの市民に親しまれている。また、イベントや催しも時折開催さ

町田の発展に貢献 自由民権運動の中心に

その広場の東の一角に「絹乃道」の石碑がある。江戸時代より、八王子は養蚕、繭や生糸の産地としてだけでなく、甲州や上州などの生産地からの集積地として発展。また、横浜港

は開国以降、貿易港として発展し、明治時代には国策であった生糸輸出のための積み出し港となった。この八王子と横浜港をつな



塗装 安立孝章

仲間2人が溺死

いまだ続く後悔の旅路

私は小学生の頃、おっちゃんこちよいのイタスラ子だった。危険なで行ってはいけないとされていた溜池に行き、魚を釣ったり泳いだりしていた。当時は夏休みまで水泳は禁止、海は家族同伴でなければ許されなかった。

そんなことはお構いなしに、5月中旬から6〜7人の仲間と、放課後に6キロほど歩いて海水浴に。それがバレー先生に怒られ、ウチへ帰っては親に怒られた。それでも懲りずに年に何回かは、解禁前に海水浴に行っていた。昭和35年7月3日、いつもの仲間うち2人が、彼らの弟3人を連れて禁止されている溜池に釣りに行き、溺れて死亡した。弟たちは無事だったが、それから1年間は村で出会う人みんなに白い目で見

られ、イヤな思いをした。たまたま当日一緒ではなかったとはいえ、6年生だった私は、結果的に責任を背負わなければならなかった。亡くなった2人はカナヅチで、もし一緒にいても助けられたとは思えないし、巻き添えで亡くなっていたかもしれない。後年考えると私の両親にも、監督責任不履行で重い十字架を背負わせてしまったと後悔している。母は晩年まで、帰省のたびに「兄の消息を尋ねる人はいないが、弟の消息を尋ねる人はいっぱいいる」と言っていた。世間の皆さんは、優等生だった兄には関心がなく、おっちゃんこちよいの弟である私の行く末が気がかりだったのかも知れない。

もうすぐ古稀を迎えますが、もう少々後悔の旅と付き合わねばならない。(小平東村山)



借り物

石原莞爾は仙台の歩兵第4連隊長のとき、演習召

集の予備兵が紋付・羽織・袴姿で霧雨の中で整列し、取り調べの上、入営しているところを出勤時に目にして、中隊長に「紋付は借り物であるぞ」と怒鳴りつけた。

石原は大多数の予備兵が貧しい農家の出であるので、紋付・羽織・袴は有力者から借りてきたのである。雨に濡らしては彼らも困るだろうと考えたのであった。

忘れえぬこと

異常な猛暑もようやく影を潜め、シャワーだけで済ませるのではなく、やっと落ち着いて湯船に浸かることができる季節になった。お湯に浸かると、①温熱作用による自律神経コントロール、②浮力によるリラクゼーション、③水圧による血流促進、という3つの入浴効果により代謝がアップし、脂肪燃焼しやすい身体になるのだという。

2012年公開の『テルマエ・ロマエ』は、古代ローマ時代の浴場と現代日本の風呂を舞台上に繰り広げられるコメディ映画(監督・武内英樹)。原作となつたヤマザキマリによる同タイトルの漫画は、東京都浴場組合の推薦やイタリア・ローマに関する学術的問い合わせなど、今までにない形での反響を呼んだ。

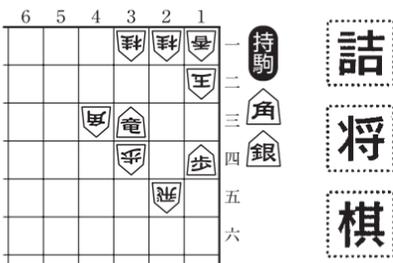
古代ローマ人の浴場設計技師ルシウス・モデストゥスは、ある日浴槽で足をどられ、何故か現代日本にタイムスリップしてしまう。日本の風呂文化にカルチャーショックを受けたルシウスは、タイムトラベルを繰り返す中でそのアイデアをローマでの浴場設計に活かしていくが…。ルシウスを演じるのは阿部寛。原作者と親交のあった18代目中村勘三郎がルシウスに顔が似ていると指摘されたこと、指輪の由だと言われている。第14代ローマ皇帝・ハドリアヌス役の市村正親のほか、ケイオニウス役の北村一輝、アントニウス役の宍戸開など、日本人離れした「濃い顔」の面々がそろい踏み。また、行く先々でルシウスと遭遇する漫画家志望の山越真実役を、上戸彩が演じている。

テルマエ・ロマエ

監督 武内英樹

時空を超えたSF(すごい風呂)超大作

続編の『テルマエ・ロマエII』と併せて、秋の夜長をほっこりお過ごしあれ。



詰将棋

チョット一服(976)

安室奈美恵が登場して沖繩のイメージが一新された、安室の引退にあたって沖繩出身の芸能人が語っていた。いわく、沖繩から東京へ出てきたとき、「拳銃を撃ったことあるのか」と聞かれたり、「沖繩と本土に時差がある」と言われたりしたそうだ。し

かし、安室のおかげで、沖繩出身がうらやましがられるようになったのだという。確かに安室は沖繩出身者にとって希望の星であったのだろう。しかし本土の人間なのかで、どれだけの人か、米軍施設が集中する沖繩で起きていた弊害に関心をもち続けたのだろうか。沖繩差別はとも根が深いのではないかな。

DVDブルーレイ



続編の『テルマエ・ロマエII』と併せて、秋の夜長をほっこりお過ごしあれ。